



# 横尾中だより

R5. 6. 28

第17号

校訓「自立」 〈学校スローガン No Challenge, No Chance〉

発行者  
長崎市立横尾中学校  
校長 小浦 末浩

## 地域ボランティア活動



先週の土曜日（6月24日）、横尾小学校のウォークラリー大会が開催されました。横尾小学校の多くの児童の皆さんを間近で見たり、話をしたりするよい機会をいただきました。

本校では、4月28日（金）に「地域ボランティア説明会」を開き、今年度は少なくとも1つは地域行事にボランティアとして全校生徒が参加しようという会を開きました。今回の横尾小のウォークラリー大会では、1部2役として女子バスケットボール部の2人が参加してくれました。また、部活動生徒以外からも3人の生徒が参加してくれました。3年の飯田さん、野田さんが回ってきた班の番号をチェックする係を、児童の誘導とヒント出しを3年副島さんが、問題を出す係を内村さんと織田さんがやってくれました。特に、今回は部活動以外の生徒のボランティア活動が初めてのことで、参加してくれた3人には感謝でした。問題を出題する2人は小学生に対して「この辺りに問題があります」と指示を出して、悩んでいる小学生にはヒントも出していました。ちなみに問題は、

「この坂の名前は？」

中学校の近所に住んでいる児童は、ブロック塀に大きく書かれているので、すぐに「①番」と答えていました。小学校1年生から6年生まで、楽しく活動できていたようでした。

また、閉会式ではプラスバンド部の6名も参加し、演奏を通して閉会式を盛り上げてくれました。



勉強も大事ですが、こういったボランティアといった経験も、今回のように多くの人たちと触れ合ったり、感謝の言葉を伝えてもらったり、貴重な経験を得られ、大事なことだと思えます。今年はいろいろな地域行事が予定されています。本校生徒の積極的な参加を期待しております。

## 被爆体験講話



6月26日（月）の5校時、被爆者の末永浩先生をお迎えして、今年度の「被爆体験講話」を行いました。

末永先生は、入市被爆者で、直接長崎市内で被爆されてはいないのですが、お母様と妹さんの2人は立山で被爆され、夜通し歩いて諫早まで来たとのことでした。「平和が大事、命が大事」という言葉を繰り返し話され、印象に残りました。末永先生の「長崎の人間として平和を語り継いでほしい」という思いも感じました。87歳というご高齢にもかかわらず、今年も長崎市の小中学校でご講演をいただき、ありがたいと感じております。



講話後、校長室でお話をさせていただきました。末永先生は、郵便局での仕事をされておられたが、長崎市に戻ってきて社会科の教員をされたとのことでした。校長室の歴代の校長先生方の写真をご覧になられて同じ職場で務めたと懐かしそうにお話をされておられました。また、講話の中でもお話をされておられましたが、末永先生は、世界を回って平和や核廃絶についてご講演をされてきたとのことでした。ウクライナのチェルノブイル原発や北朝鮮にも行かれたとのことでした。

最後に、ご自身が執筆された冊子をいただきました。今後の平和学習のために本校の図書館に置かせていただくことにしました。多くの生徒に目を通してほしいと思います。